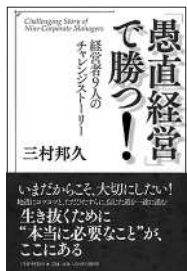


あしがきのあしがき ~著者から人事担当者へのメッセージ

『「愚直経営」で勝つ!』

経営者9人のチャレンジストーリー』



2014年1月刊
発行：PHP研究所
販売：1,620円

主な内容

- 仕事とは、命をかけて熱中する遊び
- 「濡れ雑巾経営」で「自由の最大化」を実現する
- 人に尽くせることが真の幸せ
- 何があっても「正しさ」を実践する
- 闘値を超えると世界が変わる
- 頭を下げて仕事を取る、人材を採る
- 「多楽スパイラル」で生きる
- ユートピアを私の会社につくる
- 共存共生を目指して挑み続ける

会社経営にとって本当の「賢」とは何か、「愚」とは何か、そして本当の勝者は誰なのか!? 本書に収録された9人の「愚直な」経営ストーリーから、今だからこそ大事にしたい人間力の要諦を、人事担当者にはぜひ読み取ってほしいと著者は語る。

= 誠実な会社の物語 =

「厳しい時代を生き抜く強い組織づくりには、幹部・管理職はじめ社員に経営者マインドを醸成し、寄らば大樹のぶら下がり思想を撲滅する必要がある。有名な経営学者の理論を学ぶのもよいが、現場で日々実践を積んでいる中小企業の経営者の生き様に学ぶことも多いのではないだろうか。

本書には、平均社長在位年数27年、山あり谷あり年輪を重ねた経営者人生が描かれている。彼らは社員数10人～600人規模の会社経営者で、現場で陣頭指揮を取

る現場主義者である。マスコミに取り上げられるような生き馬の目を抜くようなベンチャー企業でもカリスマ経営者で有名な会社でもない。目立たない市場で身の丈に合わせてコツコツと仕事をしている誠実な会社である」

= 人のために、正しいか =

「小さくても独立自尊の精神を持ち、明確な軸があってブレない。一貫性がある信頼性が高い。我を忘れて没頭できるテーマを見つけ、そこに一点集中して結果が出るまで愚直にやり続け、成功するまで諦めない。強い信念によって社員を導く。

失敗挫折し、大きく重く支えきれないほどの負のエネルギーをプラスに転換して、絶対に屈しない『志』にした。志とは私欲ではなく公欲であり、『人のためになるか否か、人として正しいかどうか』を判断基準としている。それによ



株式会社アイパートナー
代表取締役 三村 邦久

って後ろめたさや迷いがなくなり、失敗しても後悔することが少なく、前に進むパワーを手に入れている。幕末の勤王の志士たちが座右の銘としていた、『正心誠意、明鏡止水、敬天愛人』、このような言葉に表れるような価値観と誇りを持っている」

= 真の人間力を学ぶ =

「そして、厳しいが本当は優しい。頑固だが柔軟性がある。へそ曲がりだが本質を大事にする。規律を重んじるが常識は疑う。腹の中は分かりにくい、腹黒くはない。精神性を大事にするが、お金の大切さも知っている。慎重だが大胆さも持つ。現実主義者だが遠くも見つめている。大勢に囲まれているが孤独な人…そんな人間の魅力がある。

今、企業に求められているのは、現状維持型のマネージャーではなく、強固な基軸と柔軟性を兼ね備えた強かなリーダーである。『人を幸せにして自分も幸せになる』、損得を越える『正しい生き方』を追求している実践型リーダーに学ぶところは多い。人事担当者には真の人間力とは何かを理解いただけることだろう」